



学校だより

6月号

令和8年5月29日

大阪市立榎本小学校

水無月

雨の日は、気分が下がることが多いのではないのでしょうか。6月は梅雨、雨の日が多い月です。

ところが、6月の和風月名は「水無月」です。水が多いのに、水が無い!?

実は、水無月の「無」は「ない」でなく、「の」という意味で「水の月」という説があります。他にも、田植えが一段落し田に水を引く「水張月」「水月」を語源とする説、人々の暮らしを支える大仕事である田植えを終えた月「皆仕月」が語源する説もあります。

「翠雨（すいう）」「桜流し（さくらながし）」「秋霖（しゅういん）」「天泣（てんきゅう）」美しい名前の雨があります。「喜雨（きう）」「慈雨（じう）」恵みの雨の名前です。我々の祖先は、雨の降り方や降る時期で400以上の名前を付けて区別し、季節を感じていました。

現在は降りすぎて困ることがある雨ですが、昔は降らないことの方が困るので、「雨乞い」という儀式がありました。

小野小町の「雨乞小町」という話があります。雨乞いの歌を求められた小町は、「ちはやぶる 神もみまさば 立ちさはぎ 天の戸川の 樋口あけたまえ」と詠んだところ、たちまちに雨が降り出したといいます。

雨音には、心拍数に近い規則性と予測不能な変化が交じり合った1/fのゆらぎが含まれています。このゆらぎは、脳内にα波を導き、ストレス解消や安眠をもたらすとされています。

ムシムシと暑くて気分も塞ぎがちな6月です。雨音に耳を傾け、雨そのものを楽しんだ古来の日本人を見習って、憂鬱な季節を乗り越えましょう。

校長 篠崎 勇

